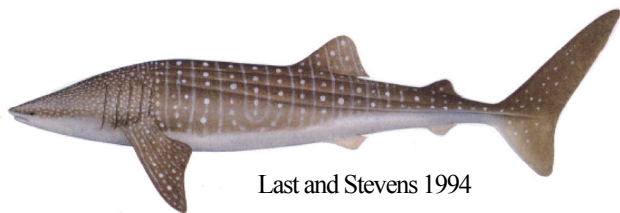


# ジンベイザメ 日本周辺

Whale Shark, *Rhincodon typus*



Last and Stevens 1994

## 管理・関係機関

絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約 (ワシントン条約、CITES)

## 最近一年間の動き

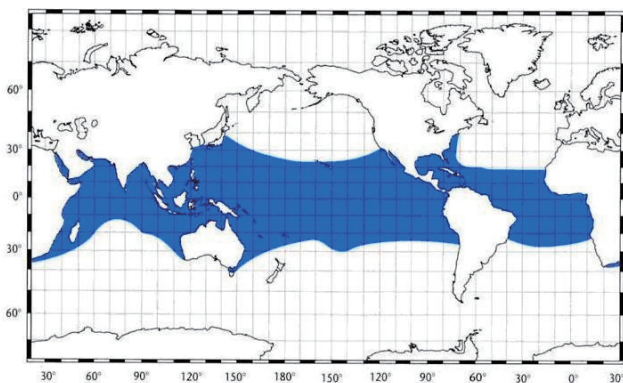
世界的に特に目立つ動きはなく、2006 年の日本周辺での出現は 7 個体が確認されている。

## 生物学的特性

- 寿命：調査中
- 成熟開始年齢：調査中
- 繁殖期・繁殖場：熱帯の外洋域?
- 索餌期・索餌場：熱帯・温帯域
- 食性：プランクトン、小魚(イワシ、サバなど)
- 捕食者：調査中

## 利用・用途

フカヒレ・肉は食用になるが、日本ではほとんど利用されない。まき網・竿釣りのさめ付き操業の指標となる。近年、幾つかの水族館で飼育・展示されるようになった。



ジンベイザメの分布 (Last and Stevens 1994)

## 漁業の特徴

我が国では本種を対象とした漁業はない。定置網による混獲は主に沖縄本島から九州、四国太平洋沿岸で起きているが、商業的価値はないので、普通は、放流され、ほとんど市場に水揚げされない。

## 漁業資源の動向

定置網による混獲は沖縄本島で 1979~1994 年の 16 年間に 78 尾 (年平均 4.9 尾)、季節は 3~9 月で夏が多い。四国太平洋沿岸では 1989~1993 年の 5 年間で 25 尾 (年平均 5 尾)、6・7 月が最も多い。日本周辺全体では毎年 2~16 尾程度である。

## 資源状態

日本に本種を漁獲する漁業はなく、資源を定量的に分析できる資料はない。しかし、全国の定置網に偶発的な混獲の記録等があり、また、まき網漁業のさめ付き操業の回数は 1990 年代に増大し、1996 年から 1998 年では毎年 200 回を越えている。双方の情報を考慮すると、日本周辺海域には毎年かなりの数が来遊してくると考えられる。

## 管理方策

過去の対象漁業による漁獲量と資源の減少、低い再生産率、そして将来の対象漁業と混獲による資源減少の可能性から、IUCN (国際自然保護連合) は本種を危急種に分類している。また、2002 年のワシントン条約第 12 回締約国会議のインド、フィリピン共同の附属書 II 掲載案は可決された。我が国に本種を対象とした漁業が存在しないので情報は大変少ない。資源評価のためには、国内の出現情報の収集体制を整備するべきである。

## 資源評価まとめ

定量的に分析できる資料はない

## 資源管理方策まとめ

ワシントン条約附属書 II への掲載

## ジンベイザメ (日本近海) の資源の現況 (要約表)

資源水準	調査中
資源動向	調査中
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	調査中
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	年間数尾~数十尾程度の混獲?